

第1回さがみロボット産業特区地域協議会 結果概要

(商工労働局 桐谷局長)

本協議会は、国の総合特別区域法の第42条に位置づけられる、法に基づく協議会。

その他、協議事項等の県HPでの公表や、会議の公開等について説明

(黒岩知事)

今、緊急財政対策本部を設け、県の財政を立て直すために全力を注いでいるところです。財政を立て直すために切る部分はありますが、同時に、ダイナミックに経済のエンジンを回していくことが大事です。経済のエンジンが回り、景気がよくなって県税収入が上がれば財政の問題も解決すると思います。

就任以来、県央、県西をもっと元気づけなければと言われてきました。確かにそのとおりだと言っているときに、ちょうどさがみ縦貫道路が2014年度に全通ということで、これはチャンス、何とか活かすべきだ、ということが見えてきました。

しかし、私は実は皆さんとちょっと違う考え方をしているかもしれません。さがみ縦貫道路がつながるとするのは、本当にチャンスだろうか、もしかしたらピンチかもしれない、と思っています。

みんなチャンスだと思っても、気がつくとうちの方には全部流れていってしまうかもしれない、そんな思いからマグネットだと言いつけてきました。つながることによって、こちらに引き付ける力が今まで以上に求められます。

明確なポリシーをもって、地域の魅力をしっかりと立てていくことが求められています。そこで、この「さがみ」という縦のラインについて、この地域に集積している産業の力を次世代型にどう見せるかという中で、生活支援ロボットに特化した形で特区に挑戦してみようと考えました。

生活支援ロボットの産業が集積している、ここに来れば未来の日本の姿が全て見える、ここから未来の新しい姿が発信できていく、そんな形を作って、下手をすればピンチになるものをチャンスに変えていきたいと考えているところです。

今日は皆様の率直なご意見、前向きなビジョンが出てくることを期待しています。

(商工労働局 桐谷局長)

では、まず議事1「地域協議会の設置について」事務局から説明いたします。

事務局(産業部 小林部長)から資料1について説明

(商工労働局 桐谷局長)

事務局から協議会の規約(案)について説明がありましたが、いかがでしょうか。

(異議なし)

(商工労働局 桐谷局長)

それでは、協議会規約については、案のとおりとさせていただきます。また、協議会規約をご承認いただきましたので、ここから議事の進行は会長である知事にお願いします。

(黒岩知事)

次に議題2の「総合特区の概要について」事務局から説明いたします。

事務局(産業部 小林部長)から資料2～5について説明

(黒岩知事)

この資料を作るにあたっては、なぜ特区なのかが分かりやすくするように、と何度も指示しており、規制緩和やその先のイメージについて整理させていただきました。もし何かありましたらお受けしますが、よろしいですか。

(異議なし)

(黒岩知事)

では、この資料を基に申請書を作成してまいります。詳細については私にご一任いただき、申請前に、皆様に申請書の原案を送らせていただくということによろしいですか。

(異議なし)

(黒岩知事)

では、そのようにさせていただきます。次に議事3の「その他」について、何かございますか。

(事務局(産業部 小林部長))

今後の予定についてご案内をさせていただきたいと思っております。

9月28日に総合特区指定申請を内閣府の方に提出したいと考えています。その後内閣府の方で、1次、2次評価等を行ったうえでヒアリングがあります。ヒアリング対象に残ったことの公表は秋口になると聞いています。その上で平成25年1月末に指定を受ける、という段取りを考えています。

(座間市商工会)

ロボットというものがどの範囲を指すのかよく分かりません。先日テレビで、赤ちゃんを寝かしつけるゆりかごのようなものが紹介されていましたが、それもロボットのうちだと考えてよいのでしょうか。

(商工労働局 桐谷局長)

経済産業省の定義では、感知、判断、動作の一連の動作を行うものをロボットとしています。

ロボットは生活の中でいろいろな形で使われており、例えば、掃除のとき掃除機を手で持って動かしていたものが自動化されています。そういった意味で、これから少子高齢化、人口が減少していく中で、それに代わるものという位置づけをしており、非常に幅広いものという理解であります。

(座間市商工会)

感知して判断して作動するものがロボットと考えると、赤ちゃんを寝かしつけるゆりかごは資料の「高齢者等への生活支援ロボット」の「等」に含まれるということかと思いますが、資料で少子高齢化に対してと言っている以上、子育て支援と明記してもいいのかなと感じました。

(商工労働局 桐谷局長)

目的をどこに絞るか、ということが大事だと考えております。特区というのはモデル性が大事になります。私どもとしては、少子高齢化や災害対応といった、神奈川県がこれから迎えるであろう事象に対してテーマを設定させていただきました。

ロボットの範囲は非常に幅広ということ踏まえて、申請、計画の中で検討させていただきます。

(海老名市)

今後この協議会を、申請の流れにあわせてまた開くのでしょうか。あるいはそういうフィードバックされた内容を、もう一度こういう席で議論する予定があるのでしょうか。

(商工労働局 桐谷局長)

協議会は、地域のご意見等をいただきながら申請や各年度の事業計画などを進めていく、いわば地域の総力を、ということで特区制度の中に位置づけられています。そのため私どもとしては、その都度、皆様から何らかの形でご意見を伺う場の設定、もしくは伺う方法を当然考えていく所存です。

(マイクロテック・ラボラトリー(株))

今の資料の中には具体的な事業がなく、これから申請して、指定を受けた後に具体化していくかということですが、誰がどんなものを作るかというのは、協議会のような場で話し合いをするのでしょうか。どうやって決めて進めていくのかについてプロセスが知りたいです。

(商工労働局 桐谷局長)

申請書に記載する内容は、あくまでも概括的なものです。ただしその中でのテーマ性、モデル性が国の特区制度に合うかがポイントになります。

その後、計画の中で基本的な事項について具体的な形を記載していきます。その記載については、当然、協議会での議論はありますが、それとは別途で各企業さんと話し合い、それを協議会の場にフィードバックしていくことになると思います。

(マイクロテック・ラボラトリー(株))

例えば、同じテーマについて2つの企業からやりたいという話が出てきた場合、両方ともやってもらうのか、どちらかに降りてもらおうのかといったことは事務局の方でまとめるのでしょうか。

(商工労働局 桐谷局長)

特区の区域の中でやるのが、特区の目的に合っている限りは、そこで事業者の選択というのは逆に難しいと考えます。調整はあるかもしれませんが、基本的にはこのエリアがロボットのメッカになるように様々な企業さんにやっていただきたいですし、それは十分に想定できていると思います。

(藤野商工会)

県は指定の確率をどのくらい見ているのでしょうか。確実に指定されるものでもないと思いますが。

(商工労働局 桐谷局長)

前年度のグリーンイノベーション総合特区が、残念ながら指定されなかった経緯はあります。私どもとしては、現段階では、全力を尽くしていくということだけ申し上げます。

(黒川副知事)

前回のグリーンイノベーションの時は、神奈川全体を特区にしようという形や、国に財政支援を求め過ぎたといった辺りが、指定から漏れた最大の原因ではないかと考えています。

また、全国でかなり同じようなグリーン関係(の取組み)が出ていました。今回は、神奈川の優位性の中で、ロボット産業ということで少し絞った形で取り組もうということで、何としても指定を取ろうという作戦です。よろしくお願いします。

(黒岩知事)

昨年はライフイノベーション総合特区の方は勝ち取りました。何とかして勝ち取りたいという思いで、3回のプレゼンテーションに私が全部出て行って一生懸命訴え、結果的に全国で1番で取れました。今回は、私もこの新しいロボット産業に全力を注ぎ、必ず勝ち取ってまいります。

(海老名商工会議所)

今月初めに県から県内企業に対し、ロボット関連製品、技術に関するアンケートを行ったと思いますが、これは今回の特区と直接関係あるものなののでしょうか。また、どれくらいの企業にアンケートを出したのでしょうか。

(新産業振興課)

今年度、ロボット産業の参入の可能性、ロボット関連企業の取組みの状況などを調査するため、これまで本県が支援してきた企業を中心に調査を行い、実態を把握しようというものです。

対象企業は全体で200~300社程度です。アンケート調査と、現地でのヒアリング調査をしようということで進めています。

(商工労働局 桐谷局長)

神奈川県の場合、現在の総合計画や中小企業活性化推進計画の中でも、ロボット産業は先端産業として振興していく、という形で盛り込んでいます。また、平成13年のロボフェスタ以降、商工労働局で様々な施策を展開しています。

そうした施策があるため、今回ロボットの特区を求めていくということであり、基本的には今回の調査も、今後の特区申請、特に国へのアピールの中で十分に活用させていただきたいと思えます。

(茅ヶ崎市)

これから、申請が通ることを前提に物事が動いていくものと思いますが、私どもも企業への働きかけなどをしていかなければと思っています。今日示された申請後のイメージを25年度、26年度に反映させていくための動きを、本気で進めていくと受け止めてよいのでしょうか。

企業に説明をする際には、これからの半期や来年度以降に、こういったアプローチをしていくかも含めて答えを求められると思います。そういったことについて、可能な範囲で構わないのでお話をいただけますか。

(黒岩知事)

時間が経ってから経済のエンジンが回り始めたのでは、効果が出てきません。なるべく早く、経済のエンジンが回っていく状況を作らなければと思っています。そういう意味でのスピード感というものは非常に大事です。

いろいろな形で準備しながら、絶対に勝ち取るんだという決意の下に、勝ち取ったらすぐに実行に移していくようなスピード感でやってまいります。

(商工労働局 桐谷局長)

今日は様々のご意見をいただきました。これから、しっかりとそのご意見を踏まえながら進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。